

# 複雑ネットワーク科学第七回講義演習課題

工学系研究科航空宇宙工学専攻修士 1 年

37-196364 吉田弘祐

## 講義を受けての感想

本講義は非常に実務的内容の濃いものであった。**Sansan** 株式会社 DSOC で行っている、複雑ネットワーク科学を用いた実務例をいくつか紹介していただきそのどれもが非常に興味深いものであった。講義で履修した内容が実際に応用するにはどのようなモデリングがなされ、どのように利用していくのかを実例を伴って学ぶことができ、ますます複雑ネットワーク科学に対する興味がわいた。以下、それぞれの内容について詳述していく。

## Sansan について

**Sansan** という会社について本講義を受けるまで全く知らなかったのだが、名刺管理サービスについては今日テレビ CM などによく見かけるものである。その業務内容については想像に難くなかった。しかし、一方で複数の組織がありそれぞれの仕事内容など珍しく感じるものであった。とりわけ、R&D チームの SocSci チームの業務内容は興味をひかれた。その内容は社会学・経済学・複雑系化学を用いて課題を見つける、また、データから、何ができるかを思考し、新しい価値を生み出すというものだ。業務内容としては一見して文系ライクに見えるが用いる知識は完全に理系であり、多様な視点や柔軟な思考が必要であるだろうと思う。新しいことを生み出す仕事は非常にタフであることが多いが、身に付けた知識を用いて試行錯誤していく過程は非常に楽しめるものであるだろうと思う。また、全社員が個人情報保護士の資格を取らなければならないということを聞いて驚いた。しかし、今日情報漏洩はネットワーク企業からすると非常に致命的であり、社内サーバーのセキュリティのみならず、各々のコンプライアンスが問われる場面も往々にして起こりうる。よくよく考えると必須の資格であるとも思う。

## 複雑ネットワーク科学をどう昇華するか

このセクションでとりわけ面白いと思ったのは、ビジネスタイプ分析だ。これは **Sansan** に取り込まれた、名刺データからユーザーがどのようなタイプの人間なのかを分析するというものである。社内キーマン、開拓者、イノベーターなどのインジケータがあり、自分が社内ではどのような人間なのかを理解するのに役立つと思われる。また、これはとりわけ人事や個人の社内キャリア設計において力を発揮するように思える。すなわち、社内人事においては、個人の特性や経験値が一目でわかるため、適切なチーム編成の助けとなりうる。また、個人の能力や適性が一目でわかるため、部署希望や仕事内容の希望などを考えるときに役立つだろうと思う。